

2017 (平成 29) 年 12 月 19 日

環境大臣 中川 雅治 殿
滋賀県知事 三日月 大造 殿
岐阜県知事 古田 肇 殿
米原市長 平尾 道雄 殿
関ヶ原町長 西脇 康世 殿

日本イヌワシ研究会 (SRGE)
会長 小澤俊樹

滋賀県米原市および岐阜県不破郡関ヶ原町で計画中的 (仮称) 米原風力発電事業の中止を求める意見書

日本イヌワシ研究会は、1981 年の発足以来、わが国で絶滅の危機にあるニホンイヌワシの研究と全国規模での生息地保全に取り組んでいます。当会の調査研究によって、国内に生息するイヌワシの繁殖率が 10% 台にまで低下していること、既知の生息地から消失してしまったつがいが、この 30 年で 100 つがいを越えていること等が明らかとなっています (別添資料)。

現在、標記の風力発電事業 (ジャパン・リニューアブル・エナジー株式会社) が進められ、環境影響評価手続は配慮書段階にあります。当会では、この計画の事業実施想定区域が、イヌワシならびにクマタカの行動範囲と重複していることを確認しており、衝突死をはじめとする重大な影響が避けられないと考えています。また、計画地は、滋賀県が「滋賀県イヌワシ・クマタカ保護指針」において『イヌワシ・クマタカの保護および生息環境保全ゾーン』に設定した場所にあり、環境改変を避けるべき場所です。

<イヌワシ・クマタカの生息状況と事業による影響>

1) イヌワシ

事業実施想定区域から 10km の範囲内に、イヌワシ 2 つがいの巣が存在しています。そのうち 1 つがいは、近年個体が確認できない状況が続いているため、現状で事業実施想定区域を行動範囲に含むイヌワシは 1 つがいです。

岩手県の釜石広域ウインドファームでは、イヌワシの風力発電機 (風車) への衝突死が、巣から 18km 離れた場所で発生しました。米原風力発電事業計画では、イヌワシの巣から 10km 以内に風車の建設が予定されており、イヌワシが衝突死する危険性は釜石広域ウインドファームより高いと考えられます。滋賀県を取り囲む山地には、1980 年頃までは、10 つがいが程度が生息していましたが、現在 6 つがいが生息しているのみであり、1 羽のイヌワシであっても衝突死によって失うことは厳に避けなければなりません。また、全国のイヌワシの生息状況を俯瞰すると、西日本の生息状況が特に危機的であることがわかっています (別添資料)。現在、西日本全体でイヌワシがつがいで定着生息していることが確認されている



のは、僅か 20 つがいです。衝突死によってイヌワシの個体を失う危険性のある本事業の実施は、西日本全体のイヌワシの地域絶滅を加速させることにつながると言えます。

なお、滋賀県レッドデータブック 2015 年版では、「かつて繁殖していた場所についても、つがいが再定着する可能性があるため、営巣環境の厳正な保全が必要である。」とされており、現在個体が確認できていない 1 つがいの生息地についても、風車建設による環境改変は適当ではありません。

2) クマタカ

事業実施想定区域から 2km の範囲内に、クマタカ 4 つがいが程度が生息していると推測され、うち 1 つがいの巣が、500m 以内に存在していることを確認しています。風車の建設によってクマタカの繁殖に悪影響を及ぼすことは明らかです。

また、事業実施想定区域の全域において、クマタカの低空飛行や止まり行動をたびたび観察しており、事業実施想定区域がクマタカ複数つがいの重要なハンティングエリアであることも判明しています。イヌワシ以上に衝突死する危険性が高いと考えられます。

<配慮書における鳥類への影響評価について>

配慮書には、「詳細な現地調査を実施し、重要な種の生息状況を把握した上で、風力発電機の配置や基数、改変区域の見直し等を検討することにより、重要な種への重大な影響は回避又は低減されるものと評価する。」と記載されています。

しかしながら、計画地ではすでに本会の現地調査が実施されており、事業実施想定区域がイヌワシの行動範囲に含まれていること、また複数のクマタカつがいが事業実施想定区域を取り囲むように生息し、事業実施想定区域の全域をハンティングエリアとして利用していることを確認しています。したがって、イヌワシならびにクマタカへの影響は、風車の配置や基数の調整によって回避・低減できるものではありません。

以上より、環境大臣、滋賀県知事、岐阜県知事、米原市長、関ヶ原町長に対し、次の通り意見を申し述べます。

(仮称) 米原風力発電事業計画は、周辺のイヌワシならびにクマタカの生息環境を著しく損なう可能性が高く、特にイヌワシについては西日本の地域絶滅を加速しかねないことから、事業者に対し、配慮書段階で事業計画を中止するよう勧告することを求めます。

<別添資料>

日本イヌワシ研究会 (2017) 全国イヌワシ生息数・繁殖成功率調査報告 (1981-2015) . Aquila chrysaetos 26 : 1-15.

【連絡先】

日本イヌワシ研究会 事務局 島田裕史 (事務局長)

Email : MXL03520@nifty.com TEL : 090-7739-7761

日本イヌワシ研究会 保護対策委員会 須藤明子 (副会長)

Email : akiko@eaglet-office.co.jp TEL : 090-8658-8564